

# 令和4年度 公益財団法人焼津市振興公社事業報告

## 1. 総括事項

公益財団法人焼津市振興公社は、定款第3条の目的を達成するため、令和4年度において、概ね次のような事業を行いました。前年度同様に新型コロナウイルス感染症の影響を受け延期になる事業もありましたが、ほぼ計画通りに事業を実施することができました。利用者についてもイベント等の開催制限が徐々に緩和されたため前年度から大きく増加し、コロナ禍前の状況への回復傾向を維持しています。

### (1) 地域文化の振興（公益目的事業）

焼津文化会館及び大井川文化会館ミュージコでは、指定管理業務受託4年度目を迎え、市文化振興計画に基づき、国内外の優れた芸術文化の鑑賞機会を広く市民に提供するとともに、市民の芸術文化活動を支援するため芸術文化事業を鑑賞型、市民参加型、普及・協働型と位置づけ、バランスよく実施しました。

事業の実施については、市民の要求と経済性を考慮した上で良質な事業を企画しました。新型コロナウイルスの影響もありましたが、徐々に来館者（入場者・参加者）も増え9事業12公演が完売となるなど、他の団体・機関との共催を含め68本（焼津43本・大井川25本）の芸術文化事業を行い、多くの市民の鑑賞・協力・参加を得て、好評を博しました。個別事業内容については、焼津文化会館分27～30ページ、大井川文化会館ミュージコ分は34～35ページに記載しました。

芸術文化事業の公演情報を広く周知するため、焼津文化会館・大井川文化会館ミュージコ統一情報紙「いべにゅ」を志太・榛原地区を中心に新聞折込にて毎月1回発行、メールマガジンやFacebookを活用し、公演内容や世代に併せたPR等で周知を行いました。

#### 1 鑑賞型

優れたアーティストによるクラシック、芸能・演芸、ポピュラーなど多彩な事業を展開しました。

クラシックでは、バラエティー番組でも大人気の高嶋ちさ子とアナウンサー軽部真一による「めざましクラシックス in 焼津（完売）」、今もっとも注目される若きピアニスト「角野隼斗×亀井聖矢 2台ピアノコンサートツアー2022（完売）」や、千の風になってで一世を風靡した「秋川雅史 千の風になってコンサート」等、例年よりも集客力も良く充実した内容で開催しました。芸能・演芸では、「DRUM TAO」や人気テレビ番組でお茶の間を賑わしている「梅沢富美男&研ナオコ『アッ』とおどろく夢芝居（2公演完売）」等を開催しました。

ポピュラーでは、「夏川りみコンサート」「中島美嘉コンサート」「世良公則コンサート（完売）」など、多くの世代に楽しんでもいただけるアーティストを招聘し開催しました。

## 2 市民参加型

市民の文化活動の促進と地域文化の活性化を図るため、ワークショップや市民自らが公演に参加・出演する事業を展開しました。

市民から作品を募集する「市民絵画公募展『まちかど展』」、「市民工芸公募展」やワークショップとして「誰でもできるマジック教室 in 焼津」、「演劇とダンスのワークショップ」、市民自らが出演する「ミュージコ吹奏楽フェスティバル」、「ミュージコピアノマラソン」のほか、ボランティア団体ミュージコサポートクラブの協力による「ロビーコンサート」も開催しました。

## 3 普及・協働型

普及を目的に無料又は低価格の講座・公演など市民に広く芸術文化に親しんでいただく事業を展開しました。

焼津ではお馴染みとなった「浅野祥」による津軽三味線の福祉施設等への訪問コンサートや「やおりえこ」による市内幼稚園・保育園等への訪問コンサートは、アットホームなコンサートで観客も一緒にリズムを取ったり手拍子をしたりと大盛況に開催できました。

大井川では志太地域で活躍している「ECO モーション」による子育て世代を対象とした「ママとパパも一緒に0歳前からのコンサート」を開催しました。

また、伝統芸能応援プログラムとして若手落語家によるワンコイン寄席を平日昼間に開催する際には、公民館生涯学習講座（焼津市・島田市）と連携し、小学生を対象とした夏休み特別講座「落語がオモシロいのはなぜだろう？」を開催し伝統芸能の普及を目的とする事業を開催しました。開催に際しては、地域人材活用もこころがけ開催しています。

また、YouTube を活用して「出演者のコメント及び演奏動画などで PR する事前告知」並びに「コンサート当日の様子を撮影した動画を後日配信」など、来館者の増加や来館できない方へのサービスとして「配信事業」も随時実施しました。

天文科学館においては、利用者に充実した科学教育の機会を提供し、天文や科学に対する興味・関心を高めることを心掛けた事業展開に努めました。また、開館 25 周年を迎え、記念セレモニーを開催するとともに、記念事業を実施しました。個別の事業内容については、39～41 ページに記載いたしました。

### 1 学校連携事業

利用団体（小中学校）の希望を受け、科学工作を体験できる「わくわくワークショップ」17 件、学校の希望に応じた出張講座を 23 件実施したほか、総合学習 18 件 191 人を受け入れました。また、「宇宙の日」記念行事全国小・中学生作文絵画コンテスト（絵画の部）では、260 点の応募があり、科学館表彰式並びに応募作品の展示を行いました。

### 2 児童生徒への理科学習支援事業

結成 6 年目となる「日本宇宙少年団焼津分団」は、13 人の団員により年間 12 回の活動を行いました。また、昨年度から再開した恒例の「小学生のための星空教室」と「夏休みの理

科自由研究相談会」も開催し、児童生徒の理科学習を支援しました。「子ども宇宙教室」では東京大学教授の橋省吾氏を招いてはやぶさ2によるリュウグウ探査の成果について講演していただきました。

それから、プログラミング教育の普及のため、小学校を対象に小型ロボット及び教材の貸出しを行いました。

4年目となる静岡大学との共催事業「静岡STEMアカデミー in 焼津」では、引き続き科学・技術・工学・数学を軸として、科学教室の実施や自由研究のサポートを行いました。

### 3 生涯学習支援事業

6年目を迎えた星空案内人資格認定講座「大人のための天文教室+（プラス）」では、3人の星空案内人と16人の準案内人を認定しました。また、「天文科学講演会」では、25周年に因み25年前から25年後までの天文学や宇宙についての話題を国立天文台の縣秀彦氏に講演していただきました。また、焼津市スマイルライフ推進課の焼津おとな倶楽部と共催し「天文楽講座」を2回実施しました。

### 4 天文台事業

今年、同時に起こった「皆既月食」と「天王星食」をYouTubeを使ってライブ配信を行い、大変多くの視聴回数を得ました。また、感染拡大防止のため、事前募集して実施した特別観望会「月と土星を見る会」についても実際の観望会に加えてライブ配信を実施し、市民の興味・関心に応えることに努めました。毎週土日実施の夜の星空観望会では、引き続き感染防止のために参加人数を制限しながら開催し、参加者は昨年度を上回りました。

### 5 プラネタリウム事業

生解説プラネタリウムでは、恒星の固有運動により星座の形は日々移り変わり、星空は数万年で大きく変わっていくことを紹介する「一期一会の星空」やこの四半世紀に起きた天文現象や宇宙の話題を振り返り、これからの四半世紀の見どころと展望を紹介する「±25年の宇宙」など季節ごとに番組を変えて投影しました。また、高精細CG投影機を活用した「CGドームシアター」では、学校長期休業期間や土日祝日に子供たちに人気のアニメ番組などを投影するとともに、元名誉館長の松本零士氏のご逝去にともない哀悼の意を表し「銀河鉄道999 赤い星ベテルギウス」を投影しました。大人を対象とした「CGドームシアター・ヒーリング」では、作家・池澤夏樹氏原作の「きみが住む星」のプラネタリウム版を投影して好評を得ました。

特別投影としては、プラネタリウムトークライブ「k-mix しずおか星空案内室課外授業 in プラネタリウム」やプラネタリウム音楽会「銀ノ輝（ぎんのかがやき） 星空に響く二胡の調べ Vol. 8」、そして、焼津・ホバート姉妹都市提携45周年事業「南半球の星空とディジュリドゥ in プラネタリウム」などを実施し、様々な切り口から天文に触れる機会の提供に努めました。

## 6 展示・体験室事業

期間を定め、テーマを変えて「ボールころがしグランプリ」、「科学のお化け屋敷Ⅱ」、「ニンニン忍者道場2」、「まっくら遊園地 2.0」の4本の特別展を開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、土日祝日及び繁忙期は、昨年度に引き続き1時間ごとの入替制で実施しました。

## 7 情報発信事業

情報紙「DISCOVERY」を年4回発行し、市内及び近隣市町の全小学生等に配布しました。また、季節ごとに制作するプラネタリウムパンフレットには、投影する番組や星図を掲載し、わかり易さと内容の充実を図りました。

さらに、テレビやラジオの出演や新聞雑誌等の取材には積極的に対応し、ホームページ、ツイッター、インスタグラム、フェイスブックにより、運営情報や天文科学情報、そして天文現象のライブ中継などの発信にも努めました。

### (2) 公の施設等の管理運営の受託（公益目的事業、収益事業）

焼津市の文化芸術の拠点施設である文化センターの施設管理と焼津、大井川両文化会館の運営、天文科学館の管理運営、ディスカバリーパーク焼津内の公園・広場の維持管理を受託しました。

両文化会館及び天文科学館の施設運営につきましては、市民の様々な要求と期待に添うことができるよう、複合施設としての機能を生かすとともに、コロナ禍にあっても弾力的、効果的な運営に努めました。年間利用者は、焼津文化会館では142,556人、大井川文化会館では、49,412人、天文科学館では、104,952人となり、三館とも昨年度に引き続き、回復傾向を維持しています。

館別利用者数については、焼津文化会館が31～33ページ、大井川文化会館が36～38ページ、天文科学館が42～43ページに記載いたしました。

ディスカバリーパーク焼津の公園においては、樹木・芝の定期的な手入れや、公園清掃を実施しました。また、踏み石健康遊歩道前の水飲み場付近で漏水があったため、修繕を行いました。

### (3) 物品販売事業（収益事業）

公社の安定財源確保のため、管理施設内の自動販売機による飲料等の販売及び天文科学館の売店にて天文グッズ等の販売を実施しました。

自動販売機については、屋内外に設置することで来館者の利便性向上を図りました。

また、天文科学館の売店については、特別展等のタイアップ商品をはじめ、星座早見や組み立て望遠鏡、実験キットなど天文・科学への興味を喚起する商品や学習に役立つ書籍等を取り扱うことで事業との相乗効果を図りました。利用者の増加にともなって、売上も増加しました。

<附属明細書の作成について>

令和4年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しておりません。